

令和5年度 第2回北野高等学校運営協議会議事録

1. 日時 令和5年12月8日(金) 15:50~16:50
2. 場所 校長室
3. 出席者 **【委員】**
PTA 会長、大阪大学量子情報量子生命研究センター特任教授、
六稜同窓会事務局長、六稜同窓会学年理事
【事務局】
校長、教頭、事務長、首席2名、教務部主任、進路部主任、指導部主任
記録2名
4. 議事次第
 - (ア) 校長挨拶
 - (イ) 事務局より報告
 - (ウ) 協議・意見交流
 - (エ) その他
5. 議事の経過(敬称略)
 - (ア) 校長挨拶
150周年記念式典の御礼
 - (イ) 事務局より報告
【校長】
(学力)
 - ・授業公開春・秋の2回実施。3年生になっても保護者の関心が高く、参観者は多かった
 - ・新カリにおける評価制度の変化について(10年研報告テーマでもある)
 - ・GL10校で教員同士が専門科目について話し合える機会を設けたい
(豊かな人間性)
 - ・行事の充実:六稜祭の1.5日制の導入。従来にはない盛り上がりを感じた。生徒の意見を取り入れ、教員と生徒が一体となって実現された
 - ・課外活動への果敢な参加:加入率100%越え(兼部を認め、多様なニーズに応じている)
 - ・人権教育:制服の変更、人権教育の本質をさらに深めていく
 - ・スクールカウンセラーとの連携:慎重な対応が必要
(次代のグローバルリーダーの育成)
 - ・イタリアからの長期留学生の受け入れ
 - ・海外研修:台湾・デンマーク(予定)・アメリカ(予定)
(職場環境の充実)
 - ・教職員の労働時間や相談のしやすい環境に関して改善していきたい

【教務部】

- ・採点の自動化：「百問繚乱」の導入、業務の軽減化
- ・評価の3観点の比率を同じにする必要があることや評定の分散が小さくなった(評定5が減った)ことが潜在的な課題
3観点が原因かはまだ不明。各教科で検討している

【進路部】

- ・現3年生は例年、もしくは例年以上に仕上がりがはよい(態度・3年計画の成功)
- ・推薦入試の受験者数も微増(10~15%)
- ・従来通り、部活・課題研究・一般入試に精力的に取り組む生徒を育成する
- ・来年度第3回校内模試を外部と連携して行う。データベースなども利用しつつ、生徒により新しくより良い教材を提供したいという試み。教職員の負担を軽減し、生徒対応の時間に充てる目的もある

【指導部】

- ・3年生は12月から午前授業。午後から校庭で体を動かす生徒もいる。
- ・直近2~3年間の3年生の欠席・遅刻は多い。個別に登校を促す指導をするつもりである
- ・遅刻の多い生徒に対しては指導部員がヒアリングを行っている
- ・次年度入学の生徒から、新制服を採用

【穴井首席】

- ・7月末、台湾研修の実施 20~30名
- ・3月末(令和5年度)、デンマーク研修の予定 来年度の課題研究につながる。
8泊9日。6名。
- ・3月末(令和5年度)、アメリカ研修の予定 3名
- ・12月18日、台湾の高校から訪問予定
- ・4月(令和6年度)、デンマークの学校から訪問予定

【質疑・応答】

- ・3年生生徒の具体的な様子について<PTA 会長>
- ・採点システムの導入の経緯と課題<大阪大学教授>
→大阪府が令和7年度の入試に向けて導入を決定、物理的なトラブルなどある。現在は試行期間である。物理的なトラブル以外に特に困ったことはなく、観点別の集計も便利になる<教務部主任>
- ・観点別評価の是非<大阪大学教授>
→観点ごとの評価と、全体の評点の両方を付けている<教務部主任>

- ・ケントウッド高校との連携が途絶えた要因について<六稜同窓会事務局長>
 - ケントウッド高校の環境変化<首席>
 - ホストファミリー確保の困難さ<教務部主任>
 - ホストファミリーが通学のサポートをできない<進路部主任>
- ・デンマーク研修の発端<六稜同窓会事務局長>
 - 本校教員の一人がパイプを持っていた、課題研究に活用する<首席>
 - 国際交流の分掌ができたことで、北野側はシステムチックにホストファミリーを募集できる<首席>
- ・公開授業に関する感想や評価について<六稜同窓会学年理事>
 - 授業評価の高い教員の授業に応募が集中、概ね好意的なコメントが寄せられた
- ・六稜祭の問題点について<六稜同窓会学年理事>
 - 例年の完成度はあまり高くなかった。今年度はクラスの活動に今まで以上に力をいれようと生徒の方から呼びかけがあった。下級生が中心だが、3年生も今年度は積極的に参加していた。3年生も含めて、学校全体で取り組めるようにしていきたい。充実させていく方向で進めているが、部活の引退時期、勉強へのシフト時期であり、生徒の意見は様々。バランスを見ながら進めていきたい<指導部主任>
- ・職場の雰囲気づくり・残業時間について<六稜同窓会学年理事>
 - 授業見学後の感想・フィードバックを書面で渡し、教員とコミュニケーションをとっている。集会では生徒に向けて話しているが、教員に向けても話している。<校長>
 - クリティカルな解決策はない。水曜日に一斉退庁日を設けており、帰りやすい環境はできたかもしれないが、難しい。長時間労働は避けるべきだが、やりがいを持って働いている職員の意思は尊重している。教員が長時間労働によって悩みを抱えている場合、相談できる環境の方が重要<校長>

(ウ) 協議・意見交流

- ・150周年を迎えた北野高校の今後に期待すること
 - 大学の制度や社会も大きく変化する時代の中で、北野高校の生徒には社会貢献を期待したい<大阪大学教授>
 - いかなる状況でも生きていくことのできる力を付けてほしい<六稜同窓会事務局長>
 - 豊かな人間性がある、はじめて他の能力がいきる。また北野高校でできたつながりは後からできなかつながりなので、これを大切にしてほしい<六稜同窓会学年理事>
 - 貧富の差による教育格差、北野高校の奨学金に感謝<PTA 会長>
 - 奨学金は増やしていきたい<大阪大学教授>

4. その他

学校への意見書の提出はなし

令和5年12月08日(金)
北野高校 学校運営協議会

次回は2月ごろに開催予定